

2019年12月6日

高等教育キーパーソン各位

地域科学 KKJ セミナーニュース 542  
新グローバル・ポスト 30 万人時代を拓く——  
留学生受入れの総合シナリオの深耕と新展開

～ 正規・非正規・別科生／日本語教育の質／海外教育事情／別科の深化 ～

《 12月21日（土）開催 》

ご参画・ご派遣のお願い

世界には 196 カ国プラス 7 地域があります（外務省 2019 年 3 月）。うち、155 カ国が日本に大使館、16 カ国が名誉（総）領事館を設置しております（同 19 年 3 月）。

（独）国際交流基金は「日本語教育国・地域別情報」（17 年 12 月）において、204 カ国・地域の日本語教育の実施状況、教育制度と外国語教育、教科書、教師などの情報をとりまとめています。また、「2018 年度海外日本語教育機関調査結果（速報値）」をこの 10 月に公表しています。142 カ国・地域における機関数、教師数はともに「過去最多」、学習者数は「再び増加」となっています。

さて、貴学におかれましては、いくつの国・地域から留学生を受入れておられますか？また、日本側の学校としては“オンリーワン”のフロンティア性がありますか？そもそも、留学生交流の中・長期的な醍醐味とは？

グローバル人材は、グローバル人財！ であることを前提とします。新たな留学生交流の総合シナリオづくりに向け、「実績」の総点検と「夢」の集約が求められます。学校の理事・教員・職員・学生とともに、OG・OBも参画して、「どんな国・地域の、どんな大学・高校等との交流を図っていくか」の基本戦略とキーパーソンとのご縁の発掘がスタートとなります。

国は、ポスト「留学生 30 万人計画」政策を様々に推進しております。法務省の出入国在留管理行政の厳格化、文科省の総合的な留学生政策～在籍管理の徹底、留学生別科の基準策定等、文化庁の日本語教育の推進と質向上～日本語教師の公的資格化、等々であります。

新たな在留資格“特定技能”による諸外国からの就労人材受け入れルートの制度化の中で、大学・日本語学校等にとっては教育研究・学修目的の留学生の大学等への受入れを純化する良い好機かと存じます。

さて、本セミナーでは、大学等において、正規生・非正規生・別科生として留学生を受入れを行なっている教育現場のコアパーソン 3 氏、日本語教育の専門家 3 氏をお招きし、貴重なご報告と今後の教学経営シナリオへの論展と助言を賜われます。

つきましては、ご多用の折とは存じますが、貴学のキーパーソン各位に、ぜひともこの機会にご参画・ご派遣を賜りますよう、お願い申し上げます。

パンフレット <http://chiikikagaku-k.co.jp/kkj/seminar/191221.pdf>